

岩垣正道

Iwagaki

Shodo



本堂の襖は作品で
埋め尽くされています



格天井に
飾られた作品



しょうどう

岩垣正道さん(目木)

1976年から曹洞宗毎来寺28世住職として入山。

1977年から版画を始め、後に国内外で個展を開くなど、

幅広い芸術活動を行う。

襖や天井が版画で飾られた毎来寺は

「版画寺」として広く知られ、

国内外から参拝者が訪れるようになった。

真

MANIWA BITO

庭人

古寺でひとり始めた版画アート

本堂に入ると多くの版画作品が出迎えてくれる毎来寺。住職は岩垣正道さんです。東京のお寺にいた岩垣さんが、縁あって目木の毎来寺に来たのは35歳のときです。「都会に憧れがあったし、お寺も古くて雨漏りもしていましたし、不安でした。けど、版画に向かっているときは、そんなこと関係ないでしょ」と、笑顔で話す岩垣さん。毎来寺に来てから2カ月後、心を落ち着かせるため般若心経を版画にすることを始めたそうです。もともと美術が好きで、大学時代は美術部で油絵を描いていた岩垣さんですが、版画を彫るのは小学生以来だったということです。

多くの人に愛される版画

毎来寺に来て7年後、岩垣さんは版画を本堂の襖に飾るようになります。今では100点以上の作品が襖を飾っていますが、「最初はこんなに作るつもりじゃなかったんです。お寺が少しでも賑やかになればと思って、1枚1枚増やしていたらこうなりました」と話す岩垣さん。本堂の屋根や天井を修理したときのこと、檀家の人から「天井にも版画を飾れないか」と、声があったそうです。それからは、天井にも作品を飾るようになり、こちらも今では100点を越えています。

岩垣さんの作品は、お寺以外のところでも目にすることが出来ます。お酒のラベルになっていたり、地

元のカレー屋さん展示されていたり、国内だけでなく国外で個展開いたこともあります。かつては都会に憧れ、東京のお寺にいた岩垣さんですが、「もし、あのまま都会にいたら、版画をしていなかったかもしれないね。2つの人生を比べることはできないけど、田舎の小さなお寺に来て版画をして、いろんな人と知り合って、お客さんが来てくれて、これはこれで良かったのかな」とお茶目に話してくれました。彫刻刀をふるう日々はまだ続きます。

まにわびと
20

2021